美術科　第48回 卒業修了制作展を開催しました。

美術科の学生たちの個性輝く作品の数々が一同に並ぶ卒業修了制作展を２月16日から21日まで、大分県立芸術会館で開催しました。会場に入るとエントランスから展示されている彫刻群の充実した作品がまず目を引きました。そしてさまざまな表現による魅力的な絵画の作品へと続きます。抽象表現や人物・風景など作者が感じたモチーフへの想いが観る人に伝わってきました。デザイン専攻では、ビジュアルデザインの楽しいポップアップ絵本やユニークなエコバッグの完成度に驚かされ、アニメーションの動きのある美しさとストーリーに多くの人が足を止めていました。工芸デザインでは、空間に映える巨大な魚の染色作品や時代を反映した屏風、お洒落で味わいのあるセラミックのチェスの駒たちなど、素材の魅力を引き出しながら作者の感性と時代感覚を表現した作品群が訪れた観客を魅了していました。

私はもともと、立体を作ることが苦手でした。短大に入って陶芸を始めてから、慣れてはきたけれど、自分の思った形にできなくて苦労しました。卒業制作のチェス駒「群」も、何度も失敗し作り直しました。それでも、出来上がったときのことを考えると、楽しくてどんどん制作が進んでいきました。完成した自分の作品を手に取ったとき、本当に涙が出るほど嬉しかったです。

佐土嶋友香「群」

機会があれば、今度は私にしか作れないようなチェス駒を作ってみたいです。

（美術科デザイン専攻　佐土嶋友香）

音楽科　音楽科・第48回卒業演奏会、専攻科の第26回修了演奏会を開催しました。［3月18日・19日］

３月18日・19日、iichiko音の泉ホールで音楽科の第48回卒業演奏会、専攻科の第26回修了演奏会を行ないました。

これらの演奏会は、最後の実技試験で優秀な成績を収めて選抜された学生によるものです。彼らの演奏は、鳥が大空に羽ばたいていくように、自由で素晴らしい音楽で満たされたものでした。本学で学び成長して自由に巣立っていく姿を目のあたりにした瞬間のようで、一抹の淋しさはこれからの彼らの未来を思う喜びに変わりました。我々教員は彼らの成功を祈るものです。

今回の修了演奏は、芸短生活４年間の集大成でした。

これまで歌ってきたホールは普段より一段と素敵な舞台に思えました。舞台裏ではやはり不安はありましたが、舞台でスポットライトを浴びた瞬間にそれまで感じていた重圧は感慨に負けてしまいました。歌っている時間は本当に充実していました。本当によく歌えたかは分かりません。しかし、私なりに音楽に対する想いを伝えられ、４年間の締め括りに相応しい演奏が出来たと思いました。

（専攻科　吉永　研二）

国際文化学科　卒業研究発表会［2月12日、15～16日］

「世界をつなぎ 未来をつむぐ」国際文化学科では、世界の多様な地域や文化を研究しています。２年次になると、学生は自らの興味・関心に従って、それぞれ研究室に所属し、卒業論文を作成し、研究発表を行います。２月12日、15～16日の３日間、いくつかの会場に分かれ、108名の学生が、102本の研究発表を行いました。日本の伝統文化から、ヨーロッパの現代文化、オセアニアにおける非核問題まで、世界の文化と社会の多様性、現代の課題を再認識する３日間となりました。

私は卒業研究のテーマに「京焼」を選びました。江戸時代の京焼の一種である〈御室焼〉の武家社会における社会的・文化的機能に着目して研究を行いました。特に注目した人物は、「京焼」の大成者として有名な野々村仁清と、彼の有力なパトロンであった丸亀藩京極家の高和と高豊です。京極家の２人の当主が仁清陶にどのような役割を求めていたのか、作品分析と文献から考察しました。

卒論発表会では、一人の持ち時間が10分でしたので、短い時間で分かりやすく発表することを目標としました。そのため、発表原稿を作成し、パワーポイントを用い視覚的に理解しやすいよう構成も工夫しました。短い時間での発表で、相手に理解してもらうことは難しい事だと感じましたが、自分が今まで積み重ねてきた研究や知識を発表するには良い機会だと感じました。

（国際文化学科　甲斐未希子）

情報コミュニケーション学科　卒業研究発表会［２月８日～10日］

Ｍ（メディア）Ｉ（情報科学）Ｐ（心理学）Ｓ（社会学）の４領域にわたり、13の研究室に分かれた２年生138名が、全学科生・教員を前に、１年間携わってきた成果を自分たちの言葉で発表しました。全67件の研究は、パワーポイントや動画、ネット情報を組み合わせ、それぞれ解りやすさに重点を置き、聴衆の興味を引くように努力しました。

聞き役の１年生は、午前・午後をそれぞれ１セッションとして、全６回のセッション、それぞれの中から一番興味深かった発表を選び、講評を提出、次年度に自分たちが発表する参考にします。

２年間の集大成として、今年の研究発表会はとても充実していたと感じました。

私の研究室では他の研究室とは一味違った発表方法で、芸短の情コミュらしい発表が出来て、やっている私自身もとても楽しんで行えました。

聞いてくれていた１年生からも「とても分かりやすく、楽しく発表を聞くことができました。」と言ってくれたので、来年の発表会にも活かして欲しいです。

この発表会を含め、芸短での２年間を忘れずに４月からの新しい生活を頑張っていきたいです。

（情報コミュニケーション学科　吉野　靖子）